

北部九州弥生時代前半期における集落分布・立地の変化 ——集落の動態にみる列島初期農耕社会の形成過程——

宇佐美 智之

I. はじめに

日本列島（以下、列島）の歴史において中国・朝鮮半島との関わりは常に重要な意味をもっているが、その中でも弥生時代にみる動向は特筆できるものである。弥生時代になると、それら地域との交流が前代の縄文時代より著しく活発になり、文物・知識・技術の受容が進展した。この過程の中で水田稲作が定着し、本格的な農耕社会が確立していく。それはまた、本稿で扱う集落をはじめ社会の様々な側面に大きな変化を生じさせるものであった。

なお縄文時代においても、植物利用自体は行われた。また水田稲作が広まる中で狩猟採集や漁労は必ずしも衰退するものでなく、その役割がより重要になる場合があったとも推察されよう。しかし外来の文物・知識・技術を複合的に用いつつ農耕に基礎をおく新しい社会を形成したという点を重視して、ここでは弥生時代に農耕社会の始まりを求めている。ただし独自の営みを発展させた北海道や琉球列島などについては、別の評価が必要である。

この農耕社会を考える場合に、人々の活動の本拠となる集落についての研究は重要な視点を与えるであろう。本稿ではこの立場から、水田稲作の開始・定着に伴う集落の増大という動きに特に焦点を当てつつ、それが顕著に生じる弥生時代前半期（早期～中期）において分布・立地の変化を明確にし、その意味するところを考えることとしたい。

なお本稿で対象とする北部九州は、列島で最も早くに農耕社会への歩みを始め、弥生時代を通してその内容を飛躍的に充実させた地域である。この地域の動向は弥生時代のひとつの到達点を示すと考えうるものであり、それを詳しく知りえたならば、列島農耕社会の全体についての考察を深めうるうえでも大きな意義があるといえよう。

II. 研究史

弥生時代開始期に朝鮮半島から北部九州に伝来した水田稲作文化は、その後さらに列島西半部（西日本）を中心として各地で本格的に導入されていった。その動きに伴い、弥生時代中期ないしそれまでには集落（遺跡）や人口の爆発的な増加が生じたことが研究史の早い段階から指摘されている¹⁾。北部九州においては、主に博多湾周辺の諸平野を対象にこの動向に関わる重要な研究が多くなされてきた²⁾。なお、以下で言及する平野・地域の名称については次章で説明を加える。

その中で、橋口達也氏は前期後半～中期前半になると水田稲作の開始を背景に遺跡の増加と新たな可耕地への進出（分村）が活発に起こることを明らかにし、この過程で土地・水利をめぐる争いや首長層の形成・再編などが進むことを論じている³⁾。また下條信行氏は前期後半から中期初頭を画

期と位置づけつつ、その時期に遺跡が急激に増加して平野の隅々に広がり、平野を単位とする地域結合が成立していくという指摘を行った⁴⁾。さらに早良平野を対象に検討した高倉洋彰氏は、遺跡数の増加を経て、前期末～中期前半に至ると拠点集落を中心とした遺跡群（ムラ）が平野内の各所に発達し、同様に平野を単位とする地域社会が形成されたという知見を示している⁵⁾。そして小沢佳憲氏は糸島・早良・福岡の各平野を対象に集落の増加や立地変化などを捉え、前期末～中期初頭を境に社会関係が変化・再編されることを論じた⁶⁾。

このように博多湾周辺の諸平野を主に扱った先学の研究から、水田稲作の定着とともに、前期後半～中期前半の時期を中心に集落（人口）の大幅な増加や分布の拡大などが生じたことが明らかであり、またその動向が弥生社会の展開において重要な意味をもったことを理解できる。

一方、博多湾周辺以外についてみると、集落資料が次第に蓄積されてきたことに伴い、筑後平野、嘉穂地域、田川地域、また佐賀平野などで検討がなされ、重要な成果が挙げられてきた⁷⁾。しかし、筑後平野や佐賀平野といった広い範囲の中で、当該時期における増加の実態や分布・立地の推移が具体的に議論されているのは一部地域に限られる。またこのことと関係して、諸先行研究が博多湾周辺で示したような地域社会の形成や特徴を検討する試みは不足しているであろう。

これらの問題に対しては引き続き詳細な個別地域研究を積み重ねていくことがまず前提としてあるが、各地で集落資料がある程度蓄積されてきた現段階で、筑後平野や佐賀平野のような広域のレベルで資料を集成しつつ総合して北部九州全体の動向をみることも、基礎的な作業のひとつとして一定の有効性をもつであろう。それは、対象各地の様相について理解を深めると同時に、上述の博多湾周辺の様相をより広い文脈の中に位置づけて評価することにつながると考えるものである。本稿ではこのような考えにもとづいて、弥生時代前半期を中心に集落分布・立地の傾向とその時期的変化を検討する。

なお弥生時代の集落を取り上げるにあたっては、環濠集落の成立と解体、生産や流通の変化、集落構成・規模の変化など論じるべき点が多くあるが、ここでは必要に応じて一部に言及するにとどめ、それらに関するより具体的な検討は別の機会に譲る。

Ⅲ．対象と方法

北部九州はおよそ九州島の西北部に相当する。この中で脊振山地が東西に横たわり、自然環境的には玄界灘に面する北側と有明海に面する南側とに大きくわかれる。北側には山々に画された狭隘な平野が接続し、南側には広大な平野が展開している。しかしそうした環境的な相違はあるものの、二日市地峡帯が回廊状の地形をなして北と南をつないでおり、歴史・文化的には不可分の関係が形成されてきたといえよう。

以下の集成作業にあたり、対象域を次のように大きく区分しておきたい（第1図）。（1）糸島地域、（2）早良平野、（3）福岡平野、（4）糟屋地域、（5）宗像地域、（6）嘉穂地域、（7）田川地域、（8）遠賀川下流域、（9）筑後北部（宝満川中・上流域）、（10）筑後川中・下流域、（11）筑後南部（矢部川流域および周辺）、（12）佐賀平野、（13）唐津平野。

本稿ではこの区分に沿って、弥生時代遺跡を網羅的に取り上げることとした。そして、弥生時代前半期に存在した、またはその可能性が高いと考えられる集落遺跡を抽出し、第1表の時期表記の

方法で整理を行っている⁸⁾。この作業を通じて対象地域の568遺跡を集成したものが第2表の対象集落一覧表（以下、一覧表）である。これに関して、いくつか注意が必要な点を述べる。

北部九州は列島全域でも弥生時代遺跡の調査の蓄積が多い地域であるが、個々の遺跡において全体が良好に調査された例は一部であり、また今後の調査の進展に応じて内容の変更が生じる可能性もある。さらに、実際に調査された遺跡はここに示すよりも多い。これらの点は今後随時補正を行っていきたいと考えるものである。ただし、それによって、以下で示す分析結果に大きな変更が生じることはないと推定している。

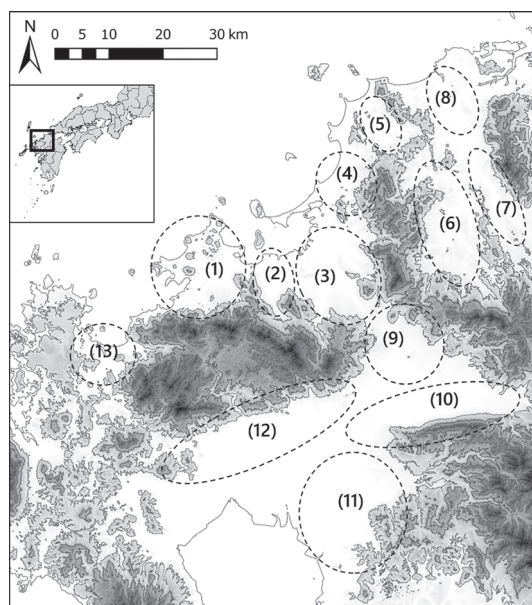
また集落の捉え方について、松木武彦氏が研究史をふまえつつ弥生時代の集落の類型を示したところによると、単独型、接続型、複合型という3類型を考えることができる⁹⁾。この理解は当該時期の集落の基本的構成や特徴をつかむには大変有効であるが、資料状況によってはその把握が困難な場合も出てくるであろう。さらに、時期による差をどう認識するかなども難しい問題である。従って本稿では類型化や通時的な定義は避け、建物（住居）や関連施設（井戸、区画、耕地など）、遺物が一定程度まとまって検出される単位を集落と考えている。

一覧表では、個々の集落において中心となる時期ないしは出土遺物・遺構の量や内容から集落の存在が推定できる時期に「○」を付した。資料が少なく詳細が不明な場合も、その可能性が比較的高いと判断した時期には括弧を付けて表している。加えて、拠点機能をもったと推定できる有力な集落を別に示した（網掛け）。なお拠点的な集落をどう考えるかは本来別に検討を要する問題である。ここでは遺物の出土量や内容、遺構の数や密度などをふまえて評価を行っているが、それにはかなり感覚的な判断も含まれる。個別の詳細な分析や計量的手法をもってこれを検証することは将来的な課題である。

なお一覧表には8期（中期後半）を設けているが、提示するデータが膨大になりすぎるという理由から、この時期に新たに成立するものは拠点集落に限って記載するにとどめた。以下の分析作業は1～7期を中心とし、必要に応じて8期および後期に言及するという方針をとる。

以上の集成作業にもとづき具体的な分析を進めるが、本稿ではその方法として、GIS（地理情報システム）を利用しつつ集落の数、分布、立地の様相を把握して、その時期的推移を明らかにする。なおこの分析作業では、一覧表中括弧を付けて表した時期のものも含めて実施する。

集落の分布に関しては、カーネル密度推定法を利用して検討を行う。この利点は、対象の分布を扱う場合にその空間的傾向を視覚的に捉えやすくするという点にある。近年では弥生時代集落研



第1図 対象地域

第1表 本稿の時期表記

時期			土器型式	想定する年代
早期	1期	早期	夜白Ⅰ・Ⅱ式	前8世紀
前期	2期	前期前半	板付Ⅰ式	前5世紀
	3期	前期中頃	板付Ⅱa式	
	4期	前期後半	板付Ⅱb式	
	5期	前期末	板付Ⅱc式	
中期	6期	中期初頭	城ノ越式	前3世紀
	7期	中期前半	須玖Ⅰ式	前1世紀
	8期	中期後半	須玖Ⅱ式	

第2表 対象集落一覧 (1)

道跡名	番号	早期					前期				地域	道跡名	番号	早期					前期				中期				地域
		1	2	3	4	5	6	7	8	1				2	3	4	5	6	7	8							
竹戸東端手	1					○	○	○		(1)	駿河	86									○	○		(3)			
広田	2					(○)	(○)	(○)	(○)		(1)	須玖カクワ	87								○	(○)	(○)	(3)			
深江井半田	3									○	(1)	須玖坂本	88								○	○		(3)			
上深江小西	4	○									(1)	須玖同本	89								○	○	(○)	(3)			
上深江海老/差	5			○							(1)	平雲A	90								○	○	○	(3)			
石崎曲り田	6	○	○	○	○	○	○	○	○		(1)	赤井手	91								○	○		(3)			
多久柿原	7						○				(1)	須玖盤石	92								○	○		(3)			
上郷子	8								(○)	(○)		竹ヶ本A	93								○	○		(3)			
篠原岸田	9						○	○			(1)	雲西	94								○	○		(3)			
薮地頭給	10						(○)	○	○	(1)	伯玄社	95				○	(○)							(3)			
泊桂木・泊リュウガキ	11						(○)	(○)	○	(1)	ナライ	96									○	○		(3)			
元岡・泉原	12						(○)	(○)	○	(1)	大瀬A	97									○	○		(3)			
大原	13						(○)	(○)	○	(1)	一の谷C	98					○	○	(○)	(○)				(3)			
一の町	14						○	○	○	(1)	原田B	99									○	○		(3)			
ウスイ	15						(○)	(○)		(○)	(1)	トバセ	100								○	○		(3)			
御床松原	16						○	○	○	○	(1)	林田	101								○	○		(3)			
三坂七尾	17								○	(○)	(1)	小倉池/下	102								○	○		(3)			
平原	18						○	○			(1)	大谷	103								○	○		(3)			
三井	19	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(1)	寺田	104							(○)	(○)			(3)			
惣土小枝蔵	20	(○)	(○)								(1)	長崎	105							(○)	(○)			(3)			
高祖大馬	21						(○)	(○)			(1)	大町	106								○	○		(3)			
周船寺	22	○	○	○	○	○	○	○	○	(1)	石尺	107									○			(3)			
飯氏	23						○	○	○	(1)	中白水	108									○	○	(○)	(3)			
今宿	24				(○)	(○)	(○)	(○)	(○)	(○)	(1)	上白水西	109							(○)	(○)	(○)		(3)			
今宿五郎江	25								(○)	○	(1)	門田	110					○	○	○	○			(3)			
青木	26								(○)	(○)	(1)	天神ノ木	111							○	○	○		(3)			
拾六町ツヅ	27			(○)	(○)	(○)	(○)			(○)	(2)	ウツグチ	112								○			(3)			
拾六町平田	28			(○)	(○)						(2)	中屋	113			(○)	(○)	(○)	(○)					(3)			
石丸・古川	29	○	○	○	○						(2)	衆石	114									(○)	(○)	(3)			
橋本一丁田	30	○	○	○							(2)	松木	115	(○)	○	○	○	○	○	(○)				(3)			
幸多田	31	(○)	(○)								(2)	前田	116	(○)	(○)									(3)			
下山門敷町	32			(○)	(○)		(○)	○	○	(○)	(2)	仲	117								(○)	(○)		(3)			
短浜	33							○	○	○	(2)	カクチガ溝	118				(○)	○	○					(3)			
苗新町	34							○	○	○	(2)	大塚	119						(○)					(3)			
福重稲木	35	(○)	(○)	(○)	(○)						(2)	安徳台	120								(○)	○	○	(3)			
有田	36	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(2)	影ヶ溝	121				○	○	(○)			(○)		(3)			
原	37	(○)	○	○	○	○	○	○	○	○	(2)	持田ヶ溝	122						(○)					(3)			
次郎丸	38		(○)	(○)	(○)	(○)	(○)				(2)	ヒガンマ	123							(○)	(○)			(3)			
次郎丸高石	39	(○)	(○)	(○)				(○)	(○)		(2)	森園	124									○	○	(3)			
免	40	(○)	(○)	(○)							(2)	中・寺尾	125							(○)	○	○		(3)			
野介	41		(○)	(○)			○	○	○		(2)	御供田	126			(○)	(○)	(○)		○	○	○		(3)			
古武	42				○	○	○	○	○	○	(2)	向谷北	127						(○)					(3)			
都地	43								○	○	(2)	向谷	128							○				(3)			
田村	44	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(2)	惣利東	129							○				(3)			
四重	45	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(2)	国分松本	130								○	○	○	(3)			
四重松石	46						○	○	○	○	(2)	国分千足町	131								(○)	(○)	(○)	(3)			
重留	47	○	○	○	○	○	○	(○)			(2)	原口	132					○	○	○				(3)			
重留村下	48							○	○	○	(2)	前田	133			○	○							(3)			
東入部	49		(○)	(○)	(○)	○	○	○	○	○	(2)	寛ノ本	134							(○)				(3)			
岩平	50		○	○	○	○	○	○	○	○	(2)	松ヶ上	135					○	○	○	○			(4)			
松木田	51					(○)	○	○	○	○	(2)	川原田・伴田	136							(○)	○	○		(4)			
岸田	52					(○)	○	○	○	○	(2)	横枕	137								○			(4)			
飯倉C	53					(○)	(○)	(○)	○		(2)	江辻	138	○	○									(4)			
浄泉寺	54						○	○	○	○	(2)	湯田部木原	139						(○)	○	○	○		(4)			
長尾	55						(○)	(○)	(○)		(2)	湯田水ヶ元	140							(○)	(○)	(○)		(4)			
宝台	56						○	○	○	○	(2)	吉大間池	141									(○)	(○)	(4)			
橋井川A	57				○	○	○				(2)	片見島	142			(○)	(○)	(○)						(4)			
博多	58			(○)	(○)	○	○	○	○	○	(3)	馬渡・東ヶ溝	143					(○)	(○)	○	○	○	(○)	(4)			
吉塚	59						(○)	(○)	○		(3)	種松	144						(○)	(○)				(4)			
比奈	60	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(3)	六ノ坪・百田	145		○	○	○	(○)	(○)	(○)	(○)	(○)		(4)			
那珂	61	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(3)	浜山	146								○	○	○	(○)	(4)		
雀居	62	○	○	○	○	○	○	○	(○)	(○)	(3)	花見	147								○	○		(4)			
原田青木	63							○	○	○	(3)	福蘭割煙	148						(○)	(○)				(4)			
原田大谷	64						(○)	○	○	○	(3)	香薷	149				○	○	○			○		(4)			
久保園	65							○	○	○	(3)	井尻	150							○	○	○	(○)	(4)			
上月院B	66						(○)	(○)			(3)	蓮島	151			○	○	○						(4)			
下月院C	67	(○)	○	○	○			(○)	(○)	(○)	(3)	手光瀧屋	152	(○)	○						(○)	(○)	○	(4)			
板付	68	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(3)	富司大ヒタイ	153						○	○				(4)			
高畑	69	(○)	(○)	(○)	(○)	(○)			(○)	○	(3)	富司忠良郎	154		○	○	○	○	(○)	(○)				(4)			
野間B	70							○	○	○	(3)	今川	155		○	○	○	○	○	○	○	○		(4)			
大橋E	71				(○)	(○)	(○)	(○)	(○)	(○)	(3)	大井三倉	156			(○)	○	○	○	○				(5)			
五十川	72		(○)	(○)	(○)	○	○	○	○	(○)	(3)	田村石垣	157				(○)	○	○	○	○	○		(5)			
難同	73	○	○	○	○	○	○	○	○	○	(3)	東郷堂ノ立	158		○	○	○	○	○	○	○	○		(5)			
井尻B	74					(○)	(○)	○	○	○	(3)	久原	159				○	○	○	○	(○)			(5)			
和田B	75		(○)	(○)	○	○	(○)				(3)	曲貫渡	160				(○)	(○)						(5)			
野多目A	76	(○)	(○)				(○)	(○)			(3)	光岡長尾I	161							○	○			(5)			
野多目B	77		(○)	○	○	(○)					(3)	田久立崎	162			(○)	(○)		(○)	(○)				(5)			
寺島	78				(○)	(○)	○																				

第2表 対象集落一覧 (2)

遺跡名	番号	早期				前期				中期				地域	遺跡名	番号	早期				前期				中期				地域
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4				5	6	7	8									
畑界	171										(6)			(6)	田原	256					(○)	(○)	○	○		(7)			
西ノ浦	172					○	○				(6)			(6)	庄原	257					○	○	○			(7)			
原田	173					○	○				(6)			(6)	南ノ前古墳	258					(○)	(○)				(8)			
柳ノ谷	174							○			(6)			(6)	高丸・友田	259					○	○	○	○	(○)				
小倉	175							○			(6)			(6)	尾崎・天神	260				(○)	○	○	(○)			(8)			
城塚	176							○	○	(○)	(6)			(6)	慶ノ浦	261				○	○	(○)	(○)			(8)			
井尻	177						(○)	(○)	(○)	(○)	(6)			(6)	花園	262					(○)	(○)	○	○		(8)			
宮	178				○	(○)					(6)			(6)	木屋瀬田	263		(○)	(○)	(○)						(8)			
甘木山	179					○	○	○			(6)			(6)	富尾	264						(○)	(○)	(○)		(8)			
淵候所	180					○	○	○	(○)	(○)	(6)			(6)	中伏	265					○	○				(8)			
焼ノ正	181					○	○	○	(○)	(○)	(6)			(6)	八反田	266					○	○	(○)			(8)			
立岩 (坂田池)	182			(○)		○	○	○	○	(6)				(6)	松本	267					○	○	(○)			(8)			
下ノ方	183					○	○	○	(○)	(○)	(6)			(6)	香月	268					○	○	○			(8)			
中方	184					○	○	○	○	○	(6)			(6)	馬場山	269						○	(○)			(8)			
矢崎石	185					○	○	○			(6)			(6)	辻田	270							(○)	○		(8)			
焼ノ原	186				○	○					(6)			(6)	緑	271						(○)	(○)			(8)			
赤坂	187					○	○				(6)			(6)	原	272						(○)	(○)			(8)			
長畑	188					(○)	(○)	(○)			(6)			(6)	門田	273						(○)	(○)			(8)			
野毛尾	189					○	○				(6)			(6)	中屋敷	274							○			(8)			
日上	190					○	○	○			(6)			(6)	辻ノ上	275						(○)	(○)			(8)			
上ノ原	191			(○)		○	○	○	○	○	(6)			(6)	西光寺	276						(○)	(○)			(8)			
彼岸原	192			(○)		(○)	(○)	○			(6)			(6)	磯野横道	277					○	○	○	○		(8)			
大門	193							○			(6)			(6)	感田上原	278						○	○	○		(8)			
スタレ	194					○	○	○	○	○	(6)			(6)	下堤向峯	279						(○)	○	○		(8)			
ウラノ山	195					○	(○)				(6)			(6)	新塚	280			(○)	○	○					(9)			
塚原	196						(○)	(○)			(6)			(6)	峰畑	281						(○)	○	(○)		(9)			
向田	197								(○)	(○)	(6)			(6)	桶田山	282							(○)	(○)		(9)			
佛田	198						(○)	(○)	(○)	(6)				(6)	遺場山	283		(○)	(○)	○	○					(9)			
森	199					○	○	○	(○)	(6)				(6)	吉ヶ浦	284								○	○	(9)			
清水	200						○	○	○	○	(6)			(6)	野黒坂	285					○	○	○	○		(9)			
中ノ前	201								(○)	(○)	(6)			(6)	凡元	286				(○)	○	○	○	○	○	(9)			
倉塚	202							○			(6)			(6)	大牟田西	287					○					(9)			
西ノ浦上	203					(○)	(○)				(6)			(6)	矢倉	288						(○)	(○)	(○)		(9)			
スス坂	204					(○)	(○)				(6)			(6)	倉の塚	289							○	○		(9)			
倉ノ元	205					(○)	(○)				(6)			(6)	原田町口	290							○	○		(9)			
原畑	206					(○)	(○)				(6)			(6)	以米尺	291							(○)	○	○	(9)			
会司	207							(○)	(○)		(6)			(6)	平	292							(○)	(○)		(9)			
炭塚	208						(○)	(○)			(6)			(6)	天神	293					○	○	○			(9)			
上ノ原	209					○	○				(6)			(6)	横畑	294					○	○	○			(9)			
飯塚半田北	210					○	○	○	(○)		(6)			(6)	陸・西ノ山	295						○	○	○	○	(9)			
飯塚半田東	211			○							(6)			(6)	津古内畑	296				○	○	(○)				(9)			
飯塚半田南	212					○	○	○	(○)		(6)			(6)	津古半田	297					(○)	(○)	(○)	(○)		(9)			
二塚	213					○	○				(6)			(6)	津古片栗葉	298						○	○	○		(9)			
長迫	214					(○)	(○)	(○)	(○)	(6)				(6)	津古釜前	299				(○)	○	○				(9)			
寿命院北	215						(○)	(○)			(6)			(6)	津古東宮原	300						○	○			(9)			
寿命院西	216					○	○	○	○	○	(6)			(6)	津古西台	301						○	○			(9)			
寿命院東	217					○	○	○	○	○	(6)			(6)	津古東台	302						(○)	(○)			(9)			
影塚東	218					○	○	○	○	○	(6)			(6)	津古土取	303			○	○	(○)					(9)			
影塚南	219					○	○	○	○	○	(6)			(6)	津古生掛	304					○	○	○			(9)			
大坪	220					○	○	○	○	○	(6)			(6)	三沢	305				(○)	○	○				(9)			
八王子	221			(○)		○	○	○	○	○	(6)			(6)	三沢達ヶ浦	306					○	○	○	(○)		(9)			
アノフ	222					○	○	○	○	○	(6)			(6)	三沢京江ヶ浦	307					(○)	○	○			(9)			
イカマクチ	223					○					(6)			(6)	三沢八ツツの宮	308					(○)	(○)				(9)			
赤銅	224					○	○	○			(6)			(6)	横隈井の浦	309						○	○			(9)			
釜の前	225			(○)		○					(6)			(6)	横隈北田	310					○	○			○	(9)			
穴江・塚田	226						○	○	○		(6)			(6)	三国の鼻	311			○	○	○				(○)	(9)			
塚町	227			(○)		○					(6)			(6)	横隈山	312			(○)	(○)	(○)	(○)	(○)	(○)		(9)			
原田東	228				○						(6)			(6)	一ノ口	313					○	○	○	○		(9)			
原田	229					(○)	(○)	○	○	○	(6)			(6)	北松尾口	314			○	○	○	○	○	○	○	(9)			
平塚	230					○	(○)	○	(○)		(6)			(6)	松尾口	315						(○)	(○)			(9)			
タタラ	231					(○)	(○)				(6)			(6)	三沢北中尾	316			(○)	○	○	○	○			(9)			
馬見本村東	232						○	○	○		(6)			(6)	牟田々	317						○	○	○	(○)	(9)			
尾畑	233					(○)	(○)	(○)	(○)		(6)			(6)	北半田	318				○	○	○				(9)			
藤右工門畑	234						○	○	○		(6)			(6)	富浦	319						○	○			(9)			
巻原	235					(○)	(○)				(6)			(6)	三沢黒原	320		○	○	○	○	○	○	○	○	(9)			
惣南	236					(○)	(○)	(○)			(7)			(7)	三沢寛ノ前	321							(○)	(○)		(9)			
富場河床	237					○	○				(7)			(7)	西島	322							(○)	(○)		(9)			
市場平石	238						○				(7)			(7)	みくに保育所内	323		(○)	(○)							(9)			
重場	239					(○)	(○)	(○)	(○)	(○)	(7)			(7)	三沢南崎	324			○	○	○	○	○	○	○	(9)			
宝珠	240					(○)					(7)			(7)	力武内畑	325		○	(○)							(9)			
伊方小学校	241						○	(○)	(○)	(○)	(7)			(7)	力武前畑	326													

第2表 対象集落一覧 (3)

道跡名	番号	早期		前期			中期			地域	道跡名	番号	早期		前期			中期			地域	
		1	2	3	4	5	6	7	8				1	2	3	4	5	6	7	8		
中原前	341			○					○	○	(9)	新清松原	426						(○)			(11)
東小田峰	342							○	○	○	(9)	常用日田行	427					○	○	○		
七坂	343									○	○	(9)	常用長田	428				(○)	○	○	○	
栗田	344					○			○	(○)	○	(9)	梅島	429				(○)	○	(○)	(○)	
大竹	345							(○)				(9)	津島九反坪	430					○	○	○	○
焼野	346					○		○				(9)	津島田ノ町	431							○	○
金山	347					○		○		○	○	(9)	志五反田	432						○	○	
八坂石塚	348					○		○	○	○	(10)	室岡山ノ上	433					○	○	○		
下商橋馬屋元	349			○		○				○		(10)	西山ノ上	434					○	○	○	
山隈中西又原	350							○		(○)	○	(10)	北小路	435					○	○	○	
甲余北松木	351							○				(10)	亀ノ甲	436					○	○	○	
本郷庭敷地	352				(○)		○	(○)				(10)	惣澤町	437					(○)			
南堀小道	353					(○)	(○)					(10)	一平	438					○	○	○	○
向八坂	354							(○)				(10)	立野・大坪	439				○	○	○	(○)	(○)
西森田	355							(○)	(○)			(10)	篠原	440							○	○
堤窪町	356					○		○				(10)	篠町	441					○	○	(○)	(○)
柿原	357							○	○			(10)	二反田	442					(○)	○	○	○
横田高見	358					○		○	○	○		(10)	水洗	443					○	○	○	○
横田立野	359							(○)	(○)			(10)	島田	444				(○)	(○)			
平塚川添	360									○		(10)	駒切	445						○	○	○
平塚大膳寺	361							○	○			(10)	箕ノ前	446					(○)	○	○	○
小田重澤跡	362					○		○	○	(○)		(10)	石仏	447					(○)			
一木下原	363							○	○			(10)	高野町	448						○	○	
屋永西原	364							○	○			(10)	平田・北ノ前	449							○	○
小原出口	365							○				(10)	平田・野内	450					○	○	○	○
上の原	366				(○)		○	○	○	○		(10)	柳	451						○	○	(○)
広神寺	367						○					(10)	高島	452						○	○	
原の東	368				○			(○)	○			(10)	西原	453						(○)	(○)	
雄塚	369				(○)		○	(○)	(○)			(10)	権現塚南	454					○	○		
長田	370				(○)		○					(10)	文広大塚	455						○	(○)	○
金堀	371					(○)		○				(10)	小川柳ノ内	456				(○)	○	○	○	○
外之原	372							(○)	(○)			(10)	大運池	457						(○)	(○)	(○)
大迫	373							(○)	(○)			(10)	藤ノ尾車塚	458							(○)	(○)
松木富厚	374					(○)		○	(○)			(10)	藤の尾沼跡	459				(○)	○	○	○	○
中町裏	375							○	○			(10)	山門前田	460	(○)	(○)	○	○	○	(○)	(○)	(○)
志波原	376					(○)		(○)	(○)			(10)	山門牛島	461					○	○	○	○
畑田	377			○	○							(10)	山門北ノ元	462							(○)	
岡田	378		○									(10)	御仁田	463						○		
塚堂	379				(○)							(10)	上批杷	464							○	○
権永高木	380						○	○	○	○		(10)	沼津橋馬場	465						○	○	○
仁右衛門畑	381							○	○	○		(10)	竹海牧家	466					(○)	○	○	○
竹重	382					(○)	○					(10)	東海池蓮池	467						(○)	(○)	(○)
大塚	383			○	○	○						(10)	蓮池	468							(○)	(○)
船越高原	384			(○)		○		○	(○)	○		(10)	東海池銀町	469						(○)	(○)	
船越一ノ上	385							○	○	○	○	(10)	磯島刀ヶ	470								○
水分	386							○	○	○	○	(10)	徳田八枝	471					(○)	○	○	
大約	387					○		○	○	○	(○)	(10)	田原柳澤	472						○	○	
日詰	388				(○)	○						(10)	田原石佛	473							○	○
豊城中ツボ	389							○	○			(10)	石木中高	474	○							
西郷天神免	390					(○)		(○)	(○)			(10)	土生	475						○	○	○
香	391							(○)	(○)			(10)	久蘇	476						○	○	○
貝原	392							○				(10)	仁俣	477						○	○	○
赤司定格	393									(○)	(○)	(10)	生立ヶ里	478								○
仁王丸	394							○				(10)	磯島西分	479						○	○	○
彼坪	395			○		○		○	○	○		(10)	赤司	480					(○)	(○)		
北大手木	396							○	○	○		(10)	赤司東	481					(○)	(○)		
山川南本村	397							○	○			(10)	惣屋B	482	(○)	(○)		(○)	(○)	(○)	(○)	(○)
市ノ上北屋敷	398							(○)	(○)	(○)		(10)	増田	483					(○)	(○)	(○)	(○)
辻	399							(○)	(○)			(10)	磯島本村南	484							○	○
石丸	400							(○)	(○)			(10)	久池井C	485			(○)	(○)	(○)	(○)		
東田原今寺	401							○	○	○	○	(10)	春日	486			(○)	(○)	○	○		
保田	402				(○)		○	○	○	○		(10)	坪の上	487	(○)	○	○	○	○	○		
坂本	403							○				(10)	平尾二平杉	488	○	○	○	○	○	○	(○)	(○)
坂崎	404							(○)				(10)	大門西	489						○	○	
今泉	405								(○)			(10)	金立	490						○	○	
東島	406								○	○	○	(10)	権現原	491				(○)	○	○		
蓮敷	407							○	○	○	(○)	(10)	西千市	492	○							
大番寺	408					(○)		(○)	(○)			(10)	東千市	493					(○)	○	○	(○)
塚崎東堀	409							○	○	(○)		(10)	久富	494					(○)	○	○	(○)
久保	410							○	○			(10)	友貞	495	(○)	(○)	(○)	(○)	(○)	○	○	○
下林西田	411			(○)	○			○	○	○		(10)	千市二平黒木	496						○	○	○
内平原	412							(○)	(○)			(10)	大野原	497						○	○	(○)
酒見良塚	413							○	○	○	○	(10)	赤井手	498		○	○					
車地	414							○	○	○		(11)	川久保松原	499				(○)	(○)			
笹井原	415							○	○	○		(11)	菅原原	500			(○)	(○)				
富原	416							○				(11)	原ノ町	501					(○)	(○)		
寺脇	417					(○)		(○)				(11)	徳永	502			(○)	(○)	(○)	(○)		
鬼木	418							○	○	(○)	○	(11)	村澤永	503	○	(○)	(○)	(○)	○	○	○	○
蔵敷立野	419					○		○				(11)	石上井	504						○	○	○
蔵敷森ノ木	420										○	(11)	上九郎	505						○	○	(○)
長崎六反	421					(○)						(11)	白石原	506								

第2表 対象集落一覧 (4)

遺跡名	番号	前期					中期			地域	遺跡名	番号	前期					中期			地域
		1	2	3	4	5	6	7	8				1	2	3	4	5	6	7	8	
塚原	511						○	○		(12)	古町	540					(○)				(12)
尾崎土生	512							(○)	○	(12)	坂方原	541						○	○	○	(12)
川野吉原	513								○	(12)	坊所三本松	542							○	○	(12)
利田柳	514				(○)		(○)	(○)	(○)	(12)	田島一本松	543						○			(12)
切塚	515					○	○		(○)	(12)	本分	544							(○)	○	(12)
約五本黒木	516				(○)				○	(12)	天達寺南島	545						○	○	○	(12)
約	517				(○)			○	○	(12)	本行	546					○	○	○	○	(12)
船塚	518	○								(12)	平林	547							(○)	○	(12)
西石動	519			(○)	○	○		(○)		(12)	常津	548				○	○	○			(12)
下石動	520						○	○		(12)	牛原原田	549				(○)	○	○	○		(12)
クマ	521						○			(12)	元古賀	550					○	○	○		(12)
西前田A	522						○	○	(○)	(12)	養父	551					○				(12)
吉野ヶ里	523	(○)	○	○	○	○	○	○	○	(12)	京町	552				(○)	(○)	(○)	○		(12)
志波屋一の坪	524					(○)				(12)	藤木	553				(○)	(○)				(12)
枝町	525				(○)	(○)				(12)	前田	554					○	○	○	○	(12)
大曲B	526						(○)	(○)		(12)	安永田	555						○	○	○	(12)
松原	527					○	○	(○)	○	(12)	今町岸田	556					○	○			(12)
瀬ノ尾	528					○	○			(12)	柚比本村	557					○	○	○	○	(12)
一平谷	529					○	○	○		(12)	大久保	558						○	○	○	(12)
船石	530					○	○	○	○	(12)	ハツ堂金丸	559			○	○	○	○	○	○	(12)
西寒水四本柳・七本柳	531						○	○	○	(12)	平原	560					○	○	○	○	(12)
拾得	532				(○)					(12)	茶畑	561	○	○	○	○	○	(○)			(13)
黒井	533						○	○	○	(12)	千々賀	562						○	○	○	(13)
姥	534						○	○	○	(12)	久里天宮	563							○	○	(13)
高志神社	535						○	○	○	(12)	中原	564						(○)	○	○	(13)
泥田西分	536				(○)	○	○	○	○	(12)	梅白	565	○	○	○	○	○	○	○	(○)	(13)
原古賀三本谷	537				(○)	(○)	(○)	(○)	(○)	(12)	大深田	566	○	○	○	○	○	○	○	○	(13)
町南	538		(○)	○	○	○	○			(12)	井ノ下	567					○	○	○	○	(13)
宝溝谷	539						○	○	(○)	(12)	堂の前	568					○	○	○	○	(13)

究の分野でも利用事例が多くあり¹⁰⁾、本稿の目的にも一定の有効性が見込めるであろう。なおこの分析においては、集落の規模差を加味して面積や住居址数などで重みづけを行うことができる¹¹⁾。これはより正確に分布を捉えるうえで有効な手法であるが、良好に調査がなされた集落に限っても時期ごとの面積や住居址数を正確に把握することは必ずしも容易でなく、本稿の全対象集落でそれを実施することは現実的でない。従ってここではその適用を避けることとしたが、今後の個別地域研究の中でそうした手法を用いた分析も試みたいと考える。

集落の立地に関しては、立地場所の地形、標高、勾配という3点から検討する。このうち地形の分析については、福岡平野を事例として詳細な地形分類から遺跡立地を論じた出田和久氏の研究視点が非常に有効かつ参考になるものであるが¹²⁾、本稿では北部九州一帯を扱うことから大別的な分類を行い、各時期の傾向と変化を捉えることにしたい。また、標高と勾配については、GIS上でDEM(数値標高モデル)を用いて個別集落の立地場所の数値を抽出し、それらを整理・集計して時期的傾向を表す¹³⁾。

IV. 弥生時代前半期における集落分布・立地の変遷

1. 集落数の時期的変化(第2図、第3図、第2表)

最初に、1～7期における集落数の全体傾向と流れを確認する(第2図)。1期の集落数は2～3期に約2倍、4期に約3倍へと推移しており、1～4期の中で着実に増加していく状況がみてとれる。これに変化が起こるのが5期である。この時期には顕著な増大が生じ、またその次の6期にも新たに多くの集落が成立して前半期のピークが形成されることがわかる。5・6期を中心に集落数が大きく増大していくという点は、博多湾周辺を主要対象としてなされた諸先行研究の指摘とよく対応しているであろう。

対象地域別にみた場合にも、5・6期を中心に大幅な増加を示す例が多くあり、同様のことがいえよう（第3表）。ただし細かくみるならば相違を捉えることもできる。例えば筑後南部や佐賀平野にみる動きは上述の全体傾向とかなり類似しているが、福岡平野では早くも2期に目立った増加があり、さらにピークの形成は7期にあたっている。ここは、北部九州の中でも水田稲作文化が最も早くに根付くとともに、列島の農耕社会の展開において主導的な役割を果たした地域のひとつである。そうした背景において、隣接諸地域の推移との違いがこの結果に反映されていると考えられよう。

一方、7期の評価には注意が必要である。全体傾向において7期は前半期で唯一減少が起こる時期であり、対象区分別にも複数地域で減少傾向がみられる。しかし福岡平野や糸島平野を中心に、7～8期頃には非常に有力な大型集落（比恵遺跡、那珂遺跡、須玖岡本遺跡、三雲遺跡など）

が成長・確立していくという重要な動きが認められる。これについては以下で改めて述べるが、少なくとも6期から7期への推移を単に停滞的・衰退的な状況の表れとみることは適切でないであろう。

なお、誤解を避ける目的で次の点に言及したい。本稿の集計結果としては、嘉穂地域や田川地域のように複数時期にまたがって集落が存在しない状況もみられるが、これは全くの空白地帯であったというよりも現状不明であることを示すものである。それらの時期にも少量の資料が発見されている例は少なからずあり、今後の調査の進展で明確になってくるものもあると予想している。ただし当該時期の集落の数が限定的で、またそれが5・6期を中心に増加していくという流れ自体は今後変わらないものとする。

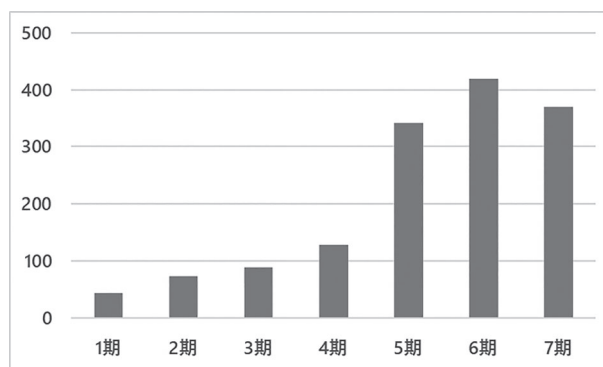
2. 集落分布の時期的変化（第3図～第9図）

各時期の集落分布の傾向をカーネル密度推定法で表現したものが第3図～第9図である。なお、図中の「☆」は拠点的な集落の位置を示している。また7期（第9図）に関しては8期に成立する拠点集落（第2表参照）も含めて表示した。

全体を通してみると各時期にそれぞれ重要な動きがあることがうかがえるが、ここでは1期、2～3期、4期、5～6期、7期にわけてその流れを記述することにしよう。

1期には博多湾周辺に多くの集落が展開している。特に福岡平野、早良平野に高密度地帯が形成されて、その中に拠点的な集落が成立するというパターンが把握できる。一方そのほかの多くの地域では基本的に少数の集落が散在するような状況が示されているが、佐賀平野に局所的な分布の集中域が存在する。

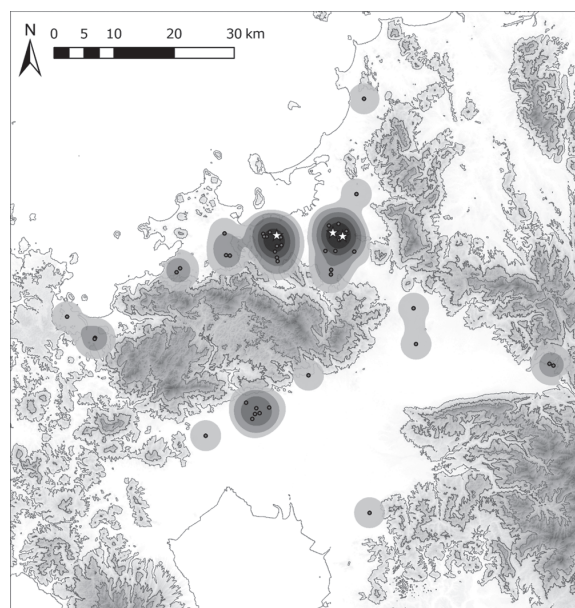
なお、本稿では墓地（埋葬関連の遺構・遺物を主体とする遺跡）は集成対象から除いているが、佐賀



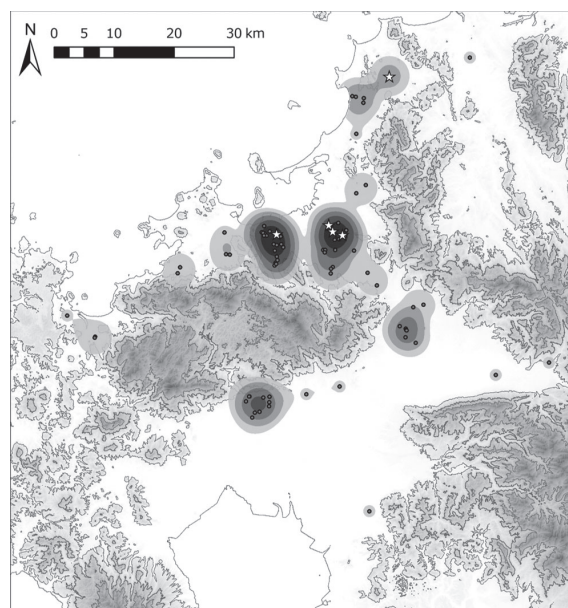
第2図 集落数の変化：全体傾向

第3表 集落数の変化：対象地域別

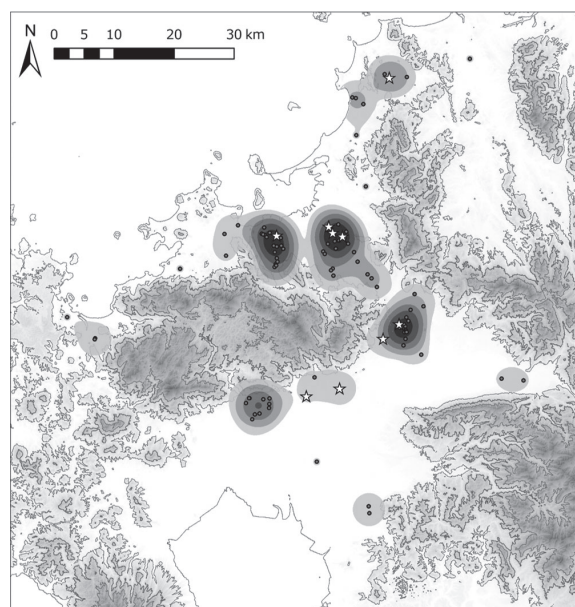
	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期
(1) 糸島地域	5	5	4	6	10	18	18
(2) 早良平野	11	19	18	13	16	23	21
(3) 福岡平野	12	17	19	23	34	41	54
(4) 糟屋地域	2	7	5	9	13	17	10
(5) 宗像地域	0	1	3	6	12	12	8
(6) 嘉穂地域	0	0	0	11	49	52	46
(7) 田川地域	0	0	0	3	19	19	14
(8) 遠賀川下流域	0	1	1	3	11	19	20
(9) 筑後北部	2	9	17	25	44	50	40
(10) 筑後川中・下流域	2	2	4	13	43	52	39
(11) 筑後南部	1	1	2	5	32	49	49
(12) 佐賀平野	8	12	14	18	57	68	53
(13) 唐津平野	3	4	4	4	5	7	7



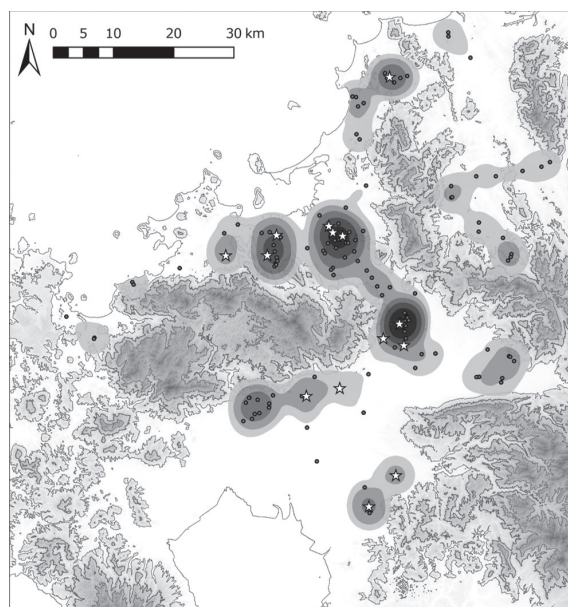
第3図 集落分布密度：1期



第4図 集落分布密度：2期



第5図 集落分布密度：3期

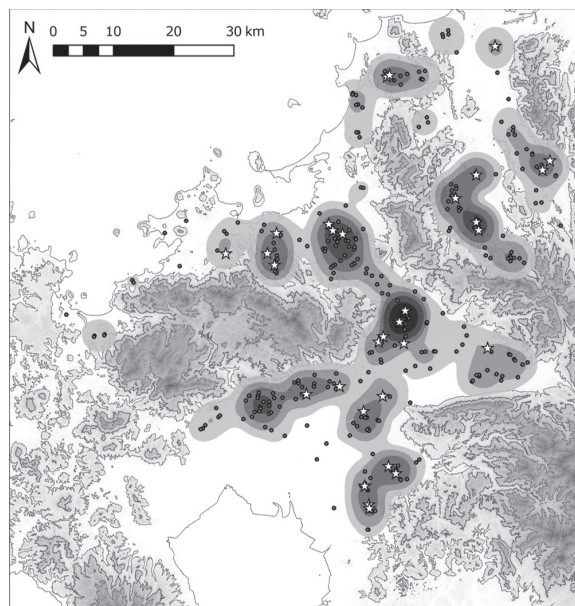


第6図 集落分布密度：4期

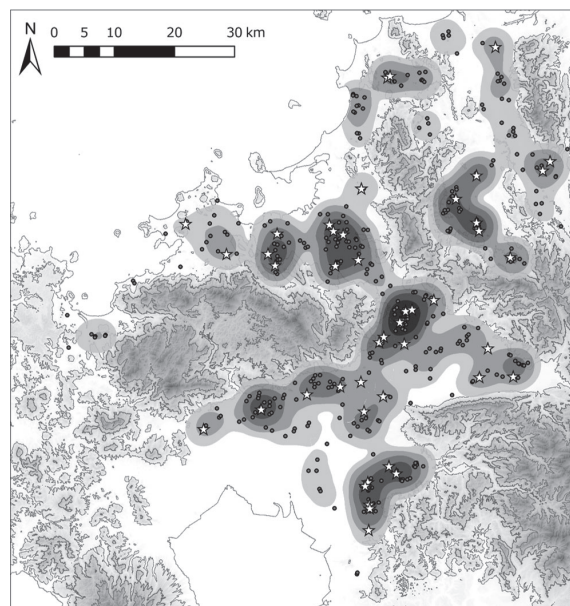
平野の集中域付近には著名な大型墓地である久保泉丸山遺跡や礫石遺跡などがある。福岡平野、早良平野とは異なりこの地域では有力な集落の存在が明瞭でないが、そうした遺跡が核として機能した可能性が考えられるであろう。

2～3期において、福岡平野、早良平野の様相は1期と類似するものであるが、その内容としては上述した通り大きな増加がみられる。そしてこの中で、板付遺跡のような整備された構造をもつ環濠集落が展開することが重要である。分布のまとまりがそうした有力な集落を中心に発達・維持していくという状況が把握できるであろう。また当該時期には、1期で言及した佐賀平野に加え、筑後北部にも分布集中域が形成されて、拠点的な集落（環濠集落）が現れてくる。福岡平野、早良平野と同様のパターンが隣接地域でも定着していく流れがみてとれるのである。

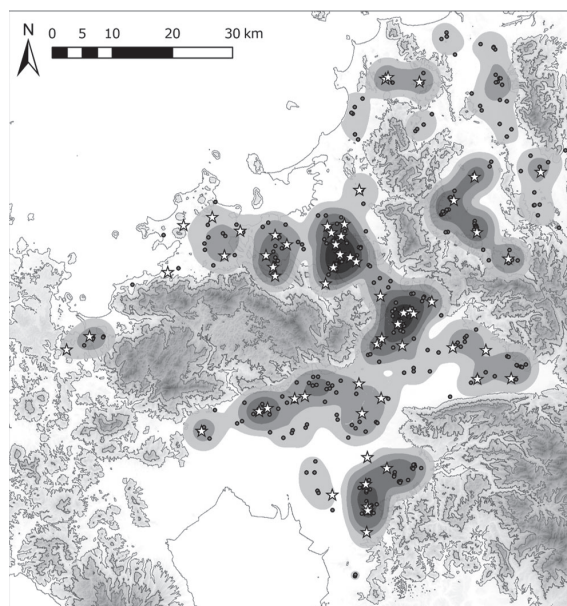
4期は、上述の福岡平野、早良平野、筑後北部、佐賀平野（中部）といった分布集中域が維持されるとともに、分布範囲が拡大する段階である。嘉穂地域や筑後川中・下流域、筑後南部などで密度



第7図 集落分布密度 (5期)



第8図 集落分布密度 (6期)



第9図 集落分布密度 (7期)

の高まりが生じるとともに、一部地域では拠点的な集落の発達も認められる。

集落数が大幅に増加する5期および6期には、さらに分布範囲が著しい拡大をみせる。この結果として、各地で分布集中域としてのまとまりが顕在化し、またそこに1つないし複数の拠点的な集落が成立するという状況が生じることを読みとれるであろう。例えば佐賀平野・筑後平野（筑紫平野）に着目すると、あわせて6～8つ程の分布のまとまりを把握しうる。この分析結果で重要なのは、5～6期は単に集落数が大きく増大するだけでなく、各地でまとまりと拠点的な集落の形成とが進む段階であるということが明確になった点にある。

上述のように7期には集落数の減少があるが、およそ5～6期と同様の分布傾向が確認できる。この中で、福岡平野や糸島平野では7～8期に多くの拠点的な集落が発達することが注目されよう。また主に博多湾周辺では、さらに中核をなすものが成立してくる。上でも触れたが、比恵遺跡、那珂遺跡（比恵・那珂遺跡群）、須玖岡本遺跡（須玖遺跡群）、三雲遺跡などである。8期の終わり頃になる

とそれらの中には前漢の大型鏡などを副葬した王墓を営む集落が現れてくるとともに、大規模な集住が進み、次第に都市的な様相が認められるようになっていくのである¹⁴⁾。

第4表 集落の時期別立地傾向：地形 (%)

	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期
丘陵	13.64	10.96	21.59	35.94	36.66	35.56	34.05
段丘	34.09	52.05	46.59	39.06	37.24	36.28	38.11
扇状地	6.82	5.48	5.68	6.25	8.21	8.35	9.19
低地	45.45	31.51	26.14	18.75	17.89	19.81	18.65

第5表 集落の時期別立地傾向：標高 (%)

	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期
0-5	0.0	0.0	1.1	2.3	2.0	4.3	4.8
5-10	46.7	29.1	24.1	20.0	16.5	16.9	18.3
10-15	23.2	24.5	23.0	16.6	14.0	11.9	10.0
15-20	7.3	15.7	10.5	9.8	11.3	10.8	8.9
20-25	4.8	12.5	10.5	7.4	6.5	7.4	9.0
25-30	6.6	8.8	10.0	12.0	12.6	11.0	10.0
30-35	0.0	3.0	6.9	10.2	9.9	9.7	10.8
35-40	4.5	5.0	9.3	7.7	7.0	8.1	8.2
40-45	0.0	0.0	1.3	2.4	6.8	6.9	6.8
45-50	0.0	0.0	3.3	3.8	3.7	3.8	3.5
50-55	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	2.3	2.6
55-60	1.5	0.0	0.0	2.1	1.7	2.1	1.6
60-65	3.3	0.2	0.0	2.0	1.4	1.6	1.8
65-70	1.5	0.9	0.0	2.2	1.1	0.9	1.0
70-75	0.5	0.3	0.0	0.5	0.5	0.4	0.4
75-80	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5	0.3	0.4
80-85	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.4	0.6
85-90	0.0	0.0	0.0	0.8	0.6	0.2	0.4
90-95	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1
>95	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.4	0.4

第6表 集落の時期別立地傾向：勾配 (%)

	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期
0_1	72.7	57.2	48.0	35.5	33.8	37.3	39.2
1_3	17.2	27.1	27.8	25.3	25.5	25.7	26.6
3_5	2.8	7.5	11.7	16.5	14.5	13.0	13.5
5_10	3.5	3.8	5.4	11.4	13.5	14.3	13.3
10_15	2.0	2.0	3.2	3.9	5.1	4.2	3.3
15_30	1.5	2.3	3.3	4.8	5.7	4.0	2.6
>30	0.3	0.2	0.6	2.7	1.9	1.6	1.4

3. 集落立地の時期的変化(第4表～第6表)

地形、標高、勾配について集落立地の推移を示したものが第4表～第6表である。各分析結果において細部には様々な事柄がみてとれるが、全体的な流れを大きく整理すると、いずれも1期、2～3期、4～7期という3つの段階を設定できるであろう。以下、その内容を簡単にまとめる。

地形については、丘陵、段丘、扇状地、低地（微高地、自然堤防、低湿地、デルタ）の4つに大別して立地傾向の推移を表している（第4表）。対象域全体では、1期の段階で丘陵、段丘、扇状地、低地というほとんどの地形を利用していたが、この時期には特に低地への集中傾向が顕著よく表れる。しかし2～3期になると低地の割合は大きく低下し、段丘や丘陵が中心を占める。そして4～7期において低地の割合は20%に満たない程度となり、これと表裏のように丘陵で増大・維持傾向が生じる。他方、注意されることとして、

4～7期を通じて変動は相対的に小さく、一定程度に立地が固定化する状況が認められる。これは標高、勾配についても同様である。

標高については、5m ごとの分類にもとづき立地傾向を集計した（第5表）。1期には5～10m、10～15m という低標高域に集約的に展開する。2～3期になると5～10m の割合が大きく低下し、代わって15～20m 以上の標高域で集落が多く出現するようになる。そして4期においては、5～10m に加えて10～15m で低下があり、55～60m 以上の高標高域でも集落が出現する。5期以後、おおむね同様の推移をたどることがわかる。結果的にこの段階には、低標高域から高標高域までを多様に利用するようになったことが理解できる。

勾配については、7段階（0～1%、1～3%、3～5%、5～10%、10～15%、15～30%、30%以上）を設定して推移を表現している（第6表）。1期には約7割の集落が0～1%の範囲に含まれ、平坦地に集約する状況であったことがわかる。しかし2～3期には0～1%の割合は大きく低下し、1～3%、

3～5%という微傾斜・緩傾斜地で増大する。4期にはさらに0～1%での減少傾向と5～10%前後の傾斜地での増加があり、以後7期までおおむね一定の割合で推移する。

4. 集落分布・立地の変遷からみた弥生社会の形成過程

以上の検討結果を簡単にまとめつつ、若干の考察を加えることにしよう。

全体の集落数変化をみると、1～4期を通じて着実に集落数が増加し、5期に至って激増が生じること、そして6期に前半期のピークをむかえることがわかる。また対象地域別にも、5～6期を中心とする増加傾向が確認できる。これらの点は諸先行研究による指摘とも対応的であるといえよう。なお7期には全体の集落数が減少するが、7～8期の中で卓越した規模・内容をもつ大型拠点集落（須玖岡本遺跡、比恵遺跡、那珂遺跡、三雲遺跡など）が成立してくることが重要であり、こうした新しい動向との関りで評価を行う必要がある。

集落分布の変遷をたどった場合、博多湾周辺の福岡平野や早良平野などでは1期に、また筑後北部では2期頃に分布集中域としてのまとまりが明瞭に現れ、その中で拠点的な集落が発達・維持していく流れがみてとれる。この時期においてそのほかの地域では散在的な分布が確認されるだけであるが、4期頃を境に大きな変化が起こる。特に5期には、集落が著しく増加して分布範囲が拡大するとともに、博多湾周辺などと同様、様々な地域で分布のまとまりと拠点的な集落の発達が認められるようになる。そしてこの動きは6期および7期へと継続する。

重要な点は、5期ないし6期において単に集落の数が増大するというだけでなく、明確な中心を伴いつつ一定の地理的な範囲に集約するという指向が各所で現れてくることにある。ここにみるまとまりは、分析スケールの設定によって大小に変わりうるもので、さらに集落の分布密度のみをもってそれら全てを実体的な単位と捉えることは必ずしも適切でないであろう。しかし大勢において、そのような指向が顕在化してくる状況は、各地で次第に政治的・社会的結合が形成されていく過程の一端を示すものと推測できる。

他方、早くも1期に顕著な動向を示す博多湾周辺についていえば、その形成は平野ほどを単位として先行的に進み、この段階までに一定の成熟をみたと考えられる。その内容や成熟度の違いなどは後半期を含めた詳細な地域研究から考察を深めるべき問題であるが、水田稲作が開始されて以後、このような地域差を生じつつ北部九州の各所で地域社会の形成が進行したことを理解できる。

集落立地を検討した結果から、その変遷においては大きく3つの段階を把握できる。1期には低地・低標高域・平坦地に集約的に展開し、2～3期になると丘陵地、あるいはより高標高や急勾配な土地を利用する動きが活発になる。そして4～7期にはそれをさらにつよめつつ、維持していく流れが生じる。

特に大きな変動が生じるのが1期から2～3期にかけてである。特定の条件に依存しやすい1期に対し、2～3期には多様な条件の土地を盛んに利用していくようになる。この変化には、人口増加が進む中で、水田稲作を主体とする活動に適した土地を選び、定着していく動きを読みとれる。

一方、4期以降には立地の変動自体が限定的になる。この詳しい評価は今後の個別地域研究にもとづく考察を必要とするが、全体としてみて、5期や6期の顕著な増加・拡散の動きを含みながらも土地利用のあり方が固定化する流れがあることは注目に値するであろう。この背景においてひとつには、単に農耕に最適な土地が選択・利用されただけでなく、拠点的な集落を中心として一定の集落配置が行われるようになったことがあると推察する。当該時期には各地で拠点集落を核とするま

とまりが現れてくるが、そうした動きと対応して、中心・周辺の関係にもとづく立地場所の選択がなされた可能性が想定されるであろう。その蓄積が立地の固定化として結果したという推測を行いたい。またそれは、地域社会の形成において基礎となるものであったと考える。

V. 結び

以上、北部九州の弥生時代前半期における集落分布・立地について検討を行った。

本来的に各地の資料を扱ううえでは詳細な検討が必要で、また精粗色々のものを一括して分析するという作業には難しい問題も伴うものと思われる。それにも関わらずこの試みを行ったのは、筆者がそうした問題を解決する力をもつからではなく、従来なされてきた精細な地域研究とともに本稿のような広域的な視点からの集落研究を発展させることも必要と考えるからである。同時にこのような取り組みの中で、GIS が大きな役割を果たすということも確認できよう。

集落分布の変遷を検討した結果から、弥生時代前半期の中で拠点的な集落を核とするまとまり（分布集中域）が顕在化していくことが重要と考えた。それは、最初に水田稲作が定着した博多湾周辺を基点とするが、以後隣接地域でも同様の動きが生じて、前期末（5期）および中期初頭（6期）に至ると様々な地域で認められるようになる。

また立地の変遷をみると、早期（1期）には特定の立地条件につよく依存する傾向があるが、その後速やかに丘陵地や段丘など多様な土地を活用する動きが出てくることがわかる。しかしこの中で、前期後半（4期）以後、集落の激増などを伴いながらも立地の変動が限定的になることが注意された点である。このことは、丘陵地などの開発を活発に進める一方で、土地利用のあり方が固定化する流れがあったことを表している。この背景においては、農耕に適した土地を選択・利用するという側面をもちつつ、拠点的な集落を中心に一定の秩序立った集落配置が行われるようになったことがあると推測する。

このように、水田稲作が本格的に開始された弥生時代前半期においては、単に集落の増大や拡散が進むだけでなく、一定程度のまとまりを形作る指向が現れてくるとともに、その中で拠点的な集落を軸とした集落間関係の形成があったことが推察できる。同時にそのような重要な動向が、従来論及されてきた博多湾周辺に限らず、時期差と地域的個性を伴いつつ北部九州の各所で生じていくことを理解できるのである。

最後に、以上で述べた動向の歴史的な位置づけについて若干言及したい。『漢書』地理誌において倭が「百余国」と記されたことからみるならば、遅くとも紀元前後の列島には多数の「国」が存在していた可能性が高いといえる。その成立をどの時点に求めるかは難しい問題であり、見解がわかるところであるが、農耕社会が根づき、前期末・中期初頭（5・6期）頃を中心に各地で拠点集落を核とするまとまりが現れていくという流れは、そうした「国」の形成プロセスの一端を反映したものと考えられるであろう。

〔付記〕本稿をなすにあたっては宇野隆夫氏（帝塚山大学文学部客員教授、国際日本文化研究センター名誉教授）から大変有益なご指摘・助言を頂きました。記して感謝申し上げます。

注

- 1) 和島誠一・田中義昭 (1966)「弥生時代の生活と社会：住居と集落」、和島誠一編『弥生時代 (日本の考古学Ⅲ)』河出書房新社、349-356 頁。
- 2) ① 橋口達也 (1987)「集落立地の変遷と土地開発」、岡崎敬先生退官記念事業会編『東アジアの考古と歴史：岡崎敬先生退官記念論集』同朋舎、703-754 頁。② 下條信行 (1987)「弥生時代の九州」、『文化と地域性 (岩波講座日本考古学 5)』、岩波書店、125-156 頁。③ 高倉洋彰 (1995)『金印国家群の時代』、青木書店、97-110 頁。④ 吉留秀敏 (1999)「福岡平野の弥生社会」『論争 古代吉備』考古学研究会、57-80 頁。⑤ 小澤佳憲 (2002)「集落動態からみた弥生時代前半期の社会：玄界灘沿岸域を対象として」、古文化談叢、45、1-42 頁。⑥ 山崎純男 (2007)「弥生文化の開始」、広瀬和雄編『弥生時代はどう変わるか—炭素 14 年代と新しい古代像を求めて』、学生社、97-110 頁。⑦ 吉留秀敏 (2008)「北部九州における水稻農耕受容期の様相」『南部九州における水稻農耕受容期の様相』、平成 20 年度宮崎県考古学研究会、58-79 頁。
- 3) 前掲 2)、①。
- 4) 前掲 2)、②。
- 5) 前掲 2)、③。
- 6) 前掲 2)、⑤。
- 7) ① 前掲 2)、①。② 山崎頼人・杉本岳史・井上愛子 (2005)「筑後北部三国丘陵における弥生文化の受容と展開」、古文化談叢、54、1-33 頁。③ 片岡宏二 (2006)『弥生時代 渡来人から倭人社会へ』、雄山閣。④ 福島日出海 (2008)「弥生時代における地域社会の動向について：嘉穂盆地 (地域) の統一と分散」、古文化談叢、59、63-86 頁。⑤ 野村憲一 (2011)「弥生時代の集落と墓制：田川地域の動向」『後藤宗俊先生古希記念論集』後藤宗俊先生古希記念論集刊行会、15-23 頁。⑥ 徳富則久 (1994)「平坦低地における弥生～古墳時代集落の立地と動向 (佐賀平野の集落Ⅰ)」佐賀考古、1、1-30 頁。⑦ 同 (1995a)「脊振山系南麓洪積台地及びその周辺における弥生～古墳時代前期集落の立地と動向 (1) (佐賀平野の集落Ⅱ)」、佐賀考古、2、1-29 頁。⑧ 同 (1995b)「目達原段丘群及びその周辺における弥生～古墳時代前期集落の立地と動向 (佐賀平野の集落Ⅲ)」、佐賀考古、3、1-19 頁。⑨ 同 (1997)「志波屋段丘 (吉野ヶ里丘陵) 及びその周辺における弥生～古墳時代前期集落の立地と動向 (佐賀平野の集落Ⅳ)」、佐賀考古、4、1-21 頁。
- 8) なお暦年代に関しては現在活発に議論が展開されているところであり、非常に重要な問題を含んでいるが、紙幅の都合もあるためここでは筆者が想定する年代を併記するにとどめたい。
- 9) 松木武彦「総論 弥生時代の集落と集団」、設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦編『集落からよむ弥生社会 (弥生時代の考古学 8)』、同成社、3-15 頁。
- 10) ① 藤尾慎一郎 (2006)「GIS にもとづく佐賀平野における縄文～弥生時代の遺跡分布」、宇野隆夫編『実践考古学 GIS』、NTT 出版、290-297。② 宮本一夫 (2013)「縄文から弥生へ」、福岡市史編集委員会編『新修福岡市史：資料編考古 3 遺物からみた福岡の歴史』、福岡市、128-131。③ 宇佐美智之 (2018)「佐賀平野の弥生時代における集落分布変化とその評価」、情報考古学、23 (1・2)、23-31 頁。④ 姜東錫 (2018)「奈良盆地の弥生中期後葉セトルメントシステムの検討：複雑社会の農業生産組織化モデルによる」、日本考古学、45、23-43 頁。
- 11) 小杉泰 (2011)「第 4 章 空間をよむ」、佐々木憲一・小杉康・菱田哲郎ほか『はじめて学ぶ考古学』、有斐閣、75-99 頁。
- 12) 出田和久 (1978)「福岡平野における弥生時代の集落立地」、人文地理学、30 (4)、59-74 頁。
- 13) DEM については、国土地理院が提供する基盤地図情報 (10m メッシュ) を用いた。
- 14) 久住猛雄 (2008)「福岡平野 比恵・那珂遺跡群」松木武彦・藤尾慎一郎・設楽博己編『集落からよむ弥生社会』同成社、240-263 頁。

(本学文学部特任助教)

Changes in Settlement Distribution and Location Patterns during the First Half of
the Yayoi Period in Northern Kyushu: The Formation Process of Early Farming Societies
in Japan as Seen from Settlement Pattern Changes

by
Tomoyuki Usami

Rice paddy field farming was introduced to the Japanese archipelago from the Korean peninsula in the Yayoi period, and it led a rapid and huge increase in the number of settlement sites and population mainly in regions of Western Japan as well as other various social changes. Focusing on the northern Kyushu region, where the earliest farming villages in the archipelago emerged, this paper attempts to develop an understanding of how settlement patterns changed during the first half of the Yayoi period. In this study, the analysis of settlement dynamics was carried out using Geographical Information Systems (GIS) and some spatial analysis techniques including Kernel Density Estimation. The results allow us to observe the emergence of settlement concentration patterns and the establishment of central-place type settlements throughout the region, along with the growth in the number of sites and population. In addition, the study also reveals that, while site location patterns became rapidly diversified after the initial phase of this period, they started to show much less variation in and after a particular phase toward the end of the first half of this period. Considering this situation, it is assumed that relationships between central-place type settlements and other settlements were gradually formed and developed. Finally, the study shows that this transformation of settlement patterns during the first half of the Yayoi period represents the establishment and developmental process of local farming societies in this region.

Keywords: First half of the Yayoi period, northern Kyushu, settlement patterns, farming societies, GIS